

# 令和4年度白石市総合計画・総合戦略推進委員会

## 1 開催概要

- 日時 令和4年9月6日（火）午後1時30分～午後3時20分
- 場所 白石市防災センター2階 会議室

## 2 委員

	区分	団体等名称・役職	氏名	出欠
1	産業	白石商工会議所会頭	齋藤 昭	
2	産業	白石市産業振興会議代表	佐藤 全	欠席
3	産業	白石市観光協会長	佐藤 善一	
4	産業	白石市認定農業者	志村 竜生	欠席
5	教育	公立大学法人宮城大学事業構想学群教授	徳永 幸之	
6	教育	白石市教育委員会教育長	半沢 芳典	
7	金融	七十七銀行白石支店長	川村 誠一	
8	金融	仙南信用金庫業務推進部業務推進課調査役	伊藤 哲也	
9	労働団体	連合宮城仙南地域協議会白石地区会議事務局長	木村 仁彦	
10	メディア	株式会社エフエム仙台サウンズ代表取締役社長	児玉 聡	
11	士業	中小企業診断士	佐藤 勝幸	
12	議会	白石市議会議員	佐藤 秀行	
13	学識経験	白石市歴史文化アドバイザー	麻生菜穂美	
14	学識経験	プランニング開代表・アトリエ自遊楽校主宰	新田新一郎	
15	学識経験	白石市移住交流コーディネーター	遠藤 栞	欠席
16	地域組織	白石市自治会連合会長	紺野 澄雄	
17	地域組織	斎川公民館事務長	佐藤 幸枝	
18	子育て	白石刈田地区父母教師会連合会長	鈴木 雄亮	
19	子育て	子育て世代	大石 知子	

### 3 白石市出席者

	役職	氏名
1	市長	山田 裕一
2	副市長	菊地 正昭
3	総務部長	山家 英男
4	総務部企画政策課長	毛利 春樹
5	総務部企画政策課長補佐	岡崎 祐也
6	総務部企画政策課	岡崎 敏明
7	総務部企画政策課	太齋 恭兵

### 4 配布資料

(事前配布)

- ・ 次第・名簿・委員会の役割
- ・ 資料1 「第六次白石市総合計画」「白石市まち・ひと・しごと創生第2期総合戦略」  
令和3年度実施状況
- ・ 資料2 第六次白石市総合計画 重点戦略・分野目標別指標 評価一覧
- ・ 資料3 市民アンケート結果
- ・ 資料4 令和4年度の主な取組

(参考)

- ・ 第六次白石市総合計画(冊子)／全体像(A3)
- ・ 白石市まち・ひと・しごと創生第2期総合戦略(冊子)／体系図(A3)
- ・ 白石市総合計画・総合戦略推進委員会設置要綱

(当日配布)

- ・ 白石市総合計画・総合戦略推進委員会 事前意見等
- ・ (仮称)道の駅しろいし基本計画(概要版)

### 5 議事概要

#### ○委員紹介

#### ○市長挨拶

- ・ 白石市では、令和3年4月に、今後10年間の本市の目指す将来像とまちづくりの方向性についての指針となる「第六次白石市総合計画」を策定。また、同じ時期に、地方創生・人口減少対策に重点を置いた「白石市まち・ひと・しごと創生第2期総合戦略」を策定し、新たなスタートとして、計画に掲げる目標達成に向けて、様々な事業を展開しているところである。
- ・ 総合計画・総合戦略に掲げる目標の実現に向けた取り組み等を推進するとともに、計画の進捗状況の確認と成果の検証を行うため、有識者の皆様で構成する「白石市総合計画・

総合戦略推進委員会」を設置し、本日は、令和3年度の実績等をご審議いただくこととしている。委員の皆様におかれましては、専門的知見をはじめ、普段の生活から感じていることなど、様々な角度からご提案、ご意見を賜りたい。

- ・計画に掲げた目標を達成するために、何が課題なのか、どう改善すべきなのか、また、良いところはどうか、さらには更に伸ばすことができるのか、行政としても前例踏襲で事業を行っているわけではないが、広くご意見をいただき、白石市をより良くしていきたいと考えている。
- ・人口減少を克服することはかなり大変なことである。加えて、高齢化は、様々な分野の担い手となる方々の不足にもつながる。私たち行政だけでは解決できない課題が多くあり、様々な方々と連携をしていかなければならない。
- ・豊かな自然、育まれてきた歴史・文化、恵まれた交通環境など、白石市が持つポテンシャルを活かし、そして、(仮称)白石中央スマートインターチェンジとその周辺整備を白石市の活性化のチャンスととらえ、市民も、企業も、行政も、白石市が一丸となって、市の発展に取り組んでいけるよう、皆様のお力をお貸しいただきたい。本日は忌憚のない意見を賜りたい。

### ○委員長・副委員長の選任

委員長・副委員長については、事前に委員から承認いただき、委員長に宮城大学の徳永委員、副委員長に歴史文化アドバイザーの麻生委員が就任。

### ○審議

#### (1) 「第六次白石市総合計画」「白石市まち・ひと・しごと創生第2期総合戦略」の概要及び白石市総合計画・総合戦略推進委員会の役割について

事務局より、次第資料をもとに説明。

⇒質疑なし

#### (2) 令和3年度実施状況及び令和4年度取組について

事務局より、令和3年度実施状況について資料1・2をもとに、市民アンケート結果については資料3をもとに、令和4年度取組については資料4をもとに説明。

また、委員からの事前意見について、事務局より概要を説明。

### 【委員からの主なご提案・ご意見等】

- 転出の多い行き先はどこというのが疑問。たまたま周辺の自治体の首長さんと話す機会があり、白石や角田方面から来ていると言っていた。転出の行き先ってというのが、どちら方面が多いのかなということを知りたい。白石市に何が欠けていて、転出先には白石にない魅力があるのか。
- 人口の増減、転出転入という話になるとどうしても総数で考えてしまうことが多いが、今あったように、ここの理由、それをしっかり把握する必要がある。なかなか全部事細かに調べることは難しいが、今のようにどこに行っているのか、それがどういう人達な

のか、就職だったり、進学だったりということなのか。家を建てるタイミングなのか、転出はしたが勤め先は白石にあるのかといったことを、細かく統計見ていくと、そういうあたりも見えてくるところもある。そういうところをしっかりと見ながら、どこにターゲットを置いて、どういう政策を打っていくのか。そこをしっかりと見ていく必要があると思う。

- 新築で家を建てるタイミングで、実家が白石、職場が白石であるにもかかわらず、他の市町村、特に大河原で住宅を建てる知人を何人か見てきた。その取りこぼしは大変もったいないかなど。幼稚園に通っているぐらいのまだ小さいうちで、奥さんが白石の出身ではなくよそから嫁いできたので、それほど白石に執着していないと、家を建てる場所を少しでも、便利なところに求める傾向があるのかなど思ったことがあった。

多少の不便は我慢できる。例えば県の合庁や免許センターといった官公庁ってそんなにめったに行くところではない。家電量販店や大型商業施設がないっていうのも、あった方が良いでしょうが、車で 10 分走れば着くので、それが決め手になっているわけではない。総合的に見ると、若干大河原が便利ということ。例えば、白石で何か突出したものがあれば、転出をもしかしたら思いとどまってくれたのではないかと思ったことがあった。

- 要は、イメージアップ、イメージがちょっとだけ大河原の方が良いということ、若い人たちがそういう判断をするということになっているのかと思う。魅力あるまちを、住んでみたいまちをどうやってアピールするかという発信力の問題だと、私は思っている。市内外もしくは全国もしくは全世界に向けて、白石がいかに良いところであるか、ポテンシャルがどれだけあるか、子育てがすごくしやすいか、教育環境がいかに充実しているかということ、少しオーバー気味でも構わないので、発信していくということが、これは市長が筆頭になってやっていただきたいし、市としても最重点課題として取り組んでいただきたい。

- 教育環境については一定の成果が出ているということが指標にも出ている。いじめの問題も最近是非常に少なくなってきた良い方向に向いていると思う。ただ、子どもたちへのシビックプライドづくり、これはまだまだ取り組みが不足している。これに関しては、子どもたちが、自分の町に誇りを持たない限り、将来、住み続けようという気持ちにはならない。これに関しては、親世代も取り込んだ取り組みが絶対必要。施策が必要だと私は思っている。いかに白石が良いところか、どれだけ豊かな自然があって、そういう文化を築いてきたかということも含めて、子どもたち親世代を巻き込んだ、そういった教育、研修が必要になってくると思う。

- スマートインターチェンジのスポーツ・レクリエーション施設に関しては、あそこは高速から見えるような形になる。例えば、ボルダリングクライミング施設を 10 メートル以上の高い、若者がおっと思うような、そういう目立つ施設を一つ作られたら良いと思う。全国から若者が白石に登り行こうぜとじてくれるような、そんな面白い、目立つ、ちょっとカラフルな素敵なものが目に入ったら、良いと思う。

- 白石にはたくさんの農地、荒れ果てた農地がある。マイファームという施策を作っていて、ワーケーションも主流になってきているので、農地を小さい区画で整備し

て、全国に募集をかける、できれば、畑仕事をやりながら移住もしてもらう、そういった方向にいけばとても有効に活用できるのではないかと思う。

○ お城の周りは、文化的にも歴史的にも非常に良い環境が残っている。陶芸家さんも移り住んでいるが、アートの集積地のようにして、駐車場も整備して、若者がお城を巡ると同時に、白石のアート巡りのような形で回遊できるようなまちづくりにしたら、観光の目玉になるのではないか。

○ 子育て世代にとっては教育環境が非常に気になる場所。買い物以上に、子育て世代は教育環境が重要で、それは以前、白石蔵王駅の工業団地ができたときもだが、旦那さんは仙台から通う。子どもの教育を考えると仙台に住む方が良いというようなことが多分に見られた。現在の仙台近郊を見ても、トヨタが出来たが、住まいは泉区や富谷。朝は、仙台から大和、大衡に向かってすごい渋滞が起きている状況になっている。

その一方で、富谷の方が子育てに対するいろんな支援策が多いということで、仙台市民があえて富谷に引っ越すというようなことも見られる。その辺の情報はかなり気にされているので、そこをうまく、逆に利用して呼び込めるような、そういうことを考えていくことも必要なのかなと思う。その際に、やはり白石が教育環境として非常に良いんだということをぜひ打ち出さないといけないので、それを考えたときに、ITは全国均一。そういう意味で受験勉強であれば、ITを使ってリモートでできる環境にもなってきたと。

○ 大学でよく言われているのが、受験勉強はできるが、その先の伸びしろがないという話がある。伸びしろというのは教科書の世界だけで生きてきたときに、それを社会の中や新たな問題に対してどう対応するのかという訓練を全然やっていない。実は、それができているのは、地方の田舎暮らしの人の方が、そういうことを小さい時にやっている。地方の社会の中で生きる、それから自然の中で生きてくるというところが、大学以降において非常に重要なものになってきているというのが、言われるようになってきている。そういうところをぜひ白石で打ち出せるような、そんなことも考えていく必要もあると思う。

○ ワークेशन、マイファームの話があったが、市民農園で研究したことがあるが、成功しているところと失敗しているところの違いは、地元の人がどれだけ関わっているかということ。単に土地があるから貸すということだけでは成功しない。地元の人が農業に対してきちんと誇りを持って、先生として、来た人を教えるということで、しっかりやっているところは成功している。単に人を呼べば良いということではなく、姿勢を見せていくことが重要なことと思う。

○ 人口が増えないとか、転出者が多いとかということだが、大きな工場では働く人を集めるのに大変苦労して、派遣会社と契約をしている。派遣会社では、借り上げ住宅として派遣会社で契約してしまう。相場は、3万円から4万の間。借り上げ住宅に適している物件が、白石が圧倒的に少ないと聞く。貸家では5万円台。そうすると、1人暮らしの方が広い部屋を使うことはない。そうすると大河原に行ってしまうことがある。イメージの話もすごく大事だが、絶対数、住む物件がないということについては、注意しておくことが必要と思う。

- 人口を増やす策としては、子育て世代を白石にということであれば教育が非常に大きい問題であると感じる。指標としては、全国平均より白石はどのぐらいのレベルかというもので、結果は全国平均よりもちょっと下がっているという感じだが、私なら県内でどうなのかと。県内では実は結構上の方。宮城県内では、白石は結構上だと、子育てするなら教育レベルが高い白石でどうぞというふうな出し方をしたほうが良いだろうということが一つ。全国平均も大事だが、宮城県内であれば、実は教育レベルとしては大変高いと言える。
- 気になるのがスマホ。テレビやゲームの時間を合わせると、1日に2時間以上している児童は32%、生徒は52%、半分は2時間以上やっている。東北大学の川島先生が、仙台市内の少額5・6年生と中学1年生を調べたところ、スマホをやっている時間とテストの結果は全部反比例しているという結論で出ている。白石の子どもたちの学力を上げるなら、スマホを自分たちでどう思うかと自己選択をさせて、自分たちからやめると言うような教育をやる。
- ふるさと納税については、県内で面白かったのが多賀城。庭木の剪定をふるさと納税にしている。そうしたことを大々的にアピールしたら良いのかなと思う。
- 発信力の問題っていうのが私は非常に重要だと考えている。本県の学力は全国と比べて課題があり、今回の調査で、県全体では全国との開きが出てきているというような状況にあるが、その中であって本市においては、本県の中では平均を超えている。ただこれを、どうやって市民、保護者の皆さんに伝えていくのかというのが、まだまだ課題と感じている。

ICTの話では、去年、日経BP社のICT・教員指導力の調査結果で、本市の小学校が東北1位、中学校では12位であった。これをどういうふうに発信していくかということが課題である。

- シビックプライドの話も大変気になっている。郷土のことを、例えば、姉妹都市・友好都市である北海道の札幌市白石区や登別市が、我々のことをどういうふうに見ているのかということは、本市の学校教育では特に取り上げていない。戊辰戦争のことは、修学旅行の関係もあってやっているが、実は札幌や登別の人たちからリスペクトされているということをもっと伝えていかなければならない。そのためには、関わりだと思ふ。人とも関わる、地域との関わりという活動として、やはりこういう気持ちを醸成していくこと。
- 人を何とか移動させるという話になると、自治体間競争をやるということ。先ほど近隣との比較があったが、あそこより良い施策をする、常に相手があって、相手がさらに相手を上回るような施策を打ち続けて、何とか人を集めるということを頭の隅に置いておかないといけない。極端なことを言えば、日本全国を対象に白石が人口を増やすために戦い続けるのかということは、現実的ではない。基本的に、将来人口でいくと人口が減るのは決まっているわけで、他の自治体に勝つための施策を、限られた財源の中でやるっていうのは、かなり現実的ではないことに向かっている。何が言いたいかというと、今いる方々が住み続けられるようにしていくこと。最低限、ここから出ていかないように、ここに対して満足度を高めていくというのが、まずスタートライン

としてやらなければならないことと思う。

先ほどシビックプライドの話も出が、まさしくそれが一番。場合によっては出ていった子どもたちが、もしかしたら戻ってきてくれるかもしれない。その根っこの部分がシビックプライドであって、例えば、東北に戻ってくるとなった時に、白石に愛着があるから戻る。ちょっとお店が良いからそっちに住もうというよりは、白石に住みたいから住む。逆に言うと、白石に住むしかないから住んでいる。そういった方々が、ここに住み続けたいと思えるようにしていくには、漠然という言い方をすればシビックプライド、まちづくり協議会が様々な施策を取り組まれているので、その辺をもっと充実していくことを、まずは絶対的にやらなければいけないこととしてとらえて、その上で、様々な自治体間競争の中で、少しでも白石に来ていただけるような施策をそこに積み上げていくということをやっていると、財源的にも持続的な仕組みになっていくと思う。

- 学習ボランティアの取り組みが下がっていたという話があったが、高齢者の参加が手伝ってくれる方々が減ってきたので、できなくなったという時に、子どもたちの人口は減少してくるので、回数でカウントすれば必ず減る。それを無理やり伸ばす努力をするよりも、多様な取り組みができたかというふうに評価指標を持ってくれば、数字じゃないところでの効果が高まって、それが巡りまわって、シビックプライドに繋がっていくと思う。あまり抽象的なことでまとめたくはないが、多様性といった違う指標を構築することで、効果的な計画になっていくと思う。
- 白石はよそ者が地元に入りづらいという感じがある。古いものに固執して、古いものを守っていれば安心という、これが非常に今の白石の残念なところかなと思っている。白石は新幹線、在来線があり交通系は良い。ただ、新しいものは出にくいと感じている。
- 市内の経済状況が非常に悪い。危機的な状況にある。行政にお願いしたいのは、この状況をもうちょっとしっかり調査をしていただきたい。コロナ感染症が出てから3年になるが、影響は様々な業種に拡大しており、深刻化している。プラス、中国のゼロコロナ政策とウクライナ・ロシア戦争で状況が一変している。経済状況がどこまで深刻化しているかということは、様々なツールを使って調査をして、実態を把握していただきたい。

### (3) その他

事務局より、本日の内容について、9月中を目標に市のホームページ等を実施状況等を公表する予定であることを説明。

### ○市長挨拶

- ・委員の皆様におかれましては、長時間にわたりまして、数多くの貴重なご意見等を賜り感謝申し上げます。
- ・コロナ禍ではあるが直接皆様とお会いして、皆様から生の声を聞く機会を設けることができ、我々行政としても、非常に有意義なありがたい機会であったというふうに受けとめている。
- ・先ほど事務局からもあったように、本日いただいた数々のご意見は庁内で協議をさせて

いただく。また、ホームページ等で、今後どのように意見を反映していくのかということも、しっかりと発信して参りたい。

- ・委員の皆様からは、本市の取り組みまた独自の政策について発信力の強化も大変重要だといただいた。自治体間競争そこにだけ目を向けるのではなく、白石の良さ、シビックプライドの醸成、まずは市民の皆さんが、これからも白石に住み続けていきたい、そう思っただけのようなまちづくりを推進していくことが、結果として町の魅力向上に繋がって、次の世代を育成する大きな力になるということを、私自身も今日改めて気づかせていただいた。
- ・皆様と一緒に進めながら、何とか頑張っていきたい。結びになるが、委員の皆様の今後ますますのご活躍ご健勝を心から祈念申し上げ、私からの御礼の挨拶といたします。皆様まことにありがとうございました。

(以上で閉会)